

# 生物言語学の方法論的特徴について

上田雅信

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院

生成文法(*generative grammar*)—現在は生物言語学(*biolinguistics*)と呼ばれることも多いので、以下では生物言語学と呼ぶ—は 1950 年代の初期に言語の自然主義的研究として形成され始めた。Chomsky(2000: 106)は、言語の自然主義的研究は「言語及びそれと類似の現象を、経験的研究の通常の方法を用いて研究できる自然界の一部であると考えている」と主張している。この主張は心や言語は、「化学的」、「光学的」、「電子的」などと呼ばれる世界の側面と同じ世界の一側面であり、これらの側面の間には形而上学的な分裂はないという仮定に基づいている。このような観点から、生物言語学は、1950 年代初めに形成され始めた当初から、言語の科学であると主張され、自然科学との方法論的類似性が、Chomsky をはじめとする生成言語学者（生物言語学者）によって論じられてきた。

しかし、言語学者の間でも生物言語学の科学として位置づけやその発展の過程についての理解が一致しているわけではない。Chomsky (2000:76)が述べているように、生物言語学は、自然科学の他の分野と同様に自明の理と言ってもよい考え方に基づいているように思われるのに、なぜその自然科学としての位置づけの理解が異なるのであろうか。少なくともその理由の一つは、生物言語学の方法論についての精緻で専門的な議論が行われる一方で、生物言語学の方法論的特徴の哲学的あるいは概念的な性質についての議論においては、非歴史的で個別的な科学の概念が前提とされることが多く、科学の歴史への配慮が十分でないことであるように思われる。この姿勢が生物言語学の自然科学としての位置づけや概念的性質の議論に恣意性やあいまいさを残す一因となっているのではないかと考えられる。

そこで本発表では、Friedman (1993) などが論じている、Kuhn の *The Structure of Scientific Revolutions* (1962)以後重要視されるようになった観点—「科学に本格的な哲学的考察を加える際には慎重で繊細な注意を科学の歴史に対して払うことが非常に重要である」(Friedman 1993:37) という観点—から 17 世紀の科学革命という背景の中に位置づけて生物言語学の方法論的特徴を考察することを試みる。

まず、17 世紀の科学革命(*The Scientific Revolution*)における近代科学の最初の概念的枠組み（ニュートン力学）の形成過程に見られるいくつかの特徴について論じる。その後で、20 世紀の認知革命(*The Cognitive Revolution*)における生物言語学の概念的枠組みの形成過程の特徴を説明し、この 2 つの枠組みの形成過程の間に相同性があることを主張する。この議論を通して、これまで十分に関連づけられないまま議論されたり、説明されたりしていた生物言語学の方法論的特徴や概念的特徴の少なくとも一部は、近代科学の概念的枠組みの形成過程の特徴に由来するものとして体系的に関連づけて説明できることを示す。最後に生物科学の他の分野と方法論的及び概念的特徴が異なることを、生物科学におけるメカニズムの概念に焦点を当てて論じる。

## 参考文献

- Chomsky, Noam. 2000. *New Horizons in the Study of Language and Mind*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Chomsky, Noam. 2005. Three Factors in Language Design. *Linguistic Inquiry* 36.1: 1-22.
- Cohen, H. Floris. 2010 The Onset of the Scientific Revolution: Three Near-Simultaneous Transformations. In *The Science of Nature in the Seventeenth Century: Patterns of Change in Early Modern Natural Philosophy*. ed. Peter R. Anstey and John A. Schuster, 9-34. Dordrecht: Springer.
- Craver, Carl F. and Lindley Darden. 2013. *In Search of Mechanisms: Discoveries across the Life Sciences*. Chicago: University of Chicago Press.
- Friedman, Michael. 1993. Remarks on the history of science and the history of philosophy. In *World Changes: Thomas Kuhn and the Nature of Science*, ed. Paul Horwich, 37-54. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- 戸田山和久. 2015. 『科学的事実論を擁護する』名古屋：名古屋大学出版会.